深沢雄雄 村長。<敗戦>で帰郷したのが契機で、沢内村長になり、次々施策を打ち出して、全国的に有名な村に。

ふかざわまさお

日露戦争終 1905 =

岩手県和賀郡沢内村で、小地主深沢晟訓の長男に生まれる。母タミ。

曾祖父仁五郎が県議員となって財産を失っていたため、家が窮乏するなか、

祖母に可愛がられながら、一人っ子として育ち、

明治天皇没 1912 = 7歳：村立新町小学校太田分教場に入学。

第一次大戦始 1914 = 9歳：この年、曾祖父仁五郎が死去。

成績優秀で

本格政党内閣 1918 = 13歳：卒業。盛岡中学への進学を希望するも認められず、高等科へ進む。原敬首相誕生に県民同様刺激を受ける。

第一次大戦終 1919 = 14歳：ついに許されるも、盛岡中学願書間に合わず、岩手県立一関中学校入学。下宿し、弁論部で活躍。

大暴落 1920 = 15歳：一関中名物の生徒による大ストライキにも遭遇。

関東大震災 1923 = 18歳：

護憲三派圧勝 1924 = 19歳：席次四番で、中学校卒業。二高進学を希望するが、父の許しなく帰村。

治安維持法 1925 = 20歳：医師の道に進むことを条件に許され、二高理科に入学するも、

哲学・文学書を読みあさり、

金融恐慌 1927 = 22歳：好きだった祖母の急逝にショックを受けるなどし、

共産党事件 1928 = 23歳：父に無断で、東北帝国大学法文学部に入学。阿部次郎の"人格主義"の教育を受ける。

この間、東京出身の学生と知り合い、初めて上京体験するとともに、同じ郡内出身の菊池ミキに出会う。

精神的にも経済的にも苦しみ、従弟を通じて浜松市勤務医となっていた沢内村出身田中キエから借金、

語り合うとともに結ばれる。単身赴任後、妊娠の報を受け、即座に結婚。

満州事変 1931 = 26歳：

五一五事件 1932 = 27歳：長女杜史子誕生。現地事情が危険となって、家族も呼べないことから、上海銀行を退職、大叔父を頼り、台湾総督府に勤務。一家で台北に住み、台北帝国大学で、刑法など講義。

帝人疑獄事件 1934 = 29歳：

妻キエが妊娠中毒で急逝。悄然として沢内村に戻り、一人娘をの親許に託し、復帰。

二二六事件 1936 = 31歳：

帰省後、上京する途中、車内で偶然菊池ミキと再会、文通を交わすようになる。帰省中、落雷で家火災。

日中戦争始 1937 = 32歳：

後始末してようやく、菊池ミキと結婚。満州拓殖公社に就職。娘を両親に託して、満州に渡る。

健保+総動員 1938 = 33歳：

ミキは実子を得て杜史子を愛せなくなることを恐れ、不妊手術を断行。総務主任となるが、

第二次大戦始 1939 = 34歳：

やがて公社のあり方に理想は潰え、退職。満州重工業東辺道開発公社に入る。

日米開戦 1941 = 36歳：

誰にでも厳しく接する性格も災いし、本社の新しい重役ににらまれ、

創価学会検挙 1943 = 38歳：

左遷されると、同社を退職。北支開発山東鉱業所に入り、溜川炭鉱総務部長に就任。

敗戦 1945 = 40歳：

敗戦となり、立場逆転するなか、中国人民に炭鉱を無事引き渡すため妻と残留。引き渡し後、人民裁判に

付されたが、中国人青年の証言により無罪とされ、八路軍により青島近くまで護送される。

新憲法公布 1946 = 41歳：

帰国し、郷里にたどりつくこと、慣れぬ農業に従事しながら、知識人として青年会に招かれ活発に議論、

新憲法施行 1947 = 42歳：

公選初の村長選への出馬を求められて固辞するも、村のための活動を考えるようになったが、

極東裁判決 1948 = 43歳：

満州拓殖公社時代の上司に強く勧誘され、佐世保船舶工業株式会社総務部長に就任。再び、村を出る。

朝鮮戦争始 1950 = 45歳：

首切り断行時代で、苦痛を伴う日々が連続するうち、

独立回復 1951 = 46歳：

朝鮮戦争特需で会社は息を吹き返すも、上司との軋轢は深まるばかりとなり、

自衛隊発足 1954 = 49歳：

朝鮮戦争休戦後の平和不況に、

*人員整理が出来ず、総務部長の職を捨て村に帰る。その直後、父が急逝。県立黒沢尻南高校沢内分校(定時制)の英語講師となる。やがて評判となり、教育長に就任。婦人会づくり、広報創刊。農協専務佐々木吉男

と知り合い、ナメコ栽培普及に尽くし、行脚と対話で新風を吹き込む。この年、国保直営沢内病院落成。

国連加盟 1956 = 51歳：

*ナメコ生産が県内有数となり、助役に就任。国保係の高橋清吉と知り合い、国保への認識を深める。

なべ底不況 1957 = 52歳：

*第18代沢内村長に無競争当選。保健婦設置。保健委員会発足。「豪雪・多病多死・貧困」の三悪追放をめざし、村民と共に立ち上がる。冬期交通確保期成同盟会結成。この年、杜史子結婚。

イヌカトラマ 1958 = 53歳：

ブルドーザーによる除雪開始。乳児死亡半減運動進む。養老手当金支給開始。この年派遣されてきた医者

の問題が岩手日報の新人記者にスクープされそうになったのを必死に食い止め、

美智子妃 1959 = 54歳：

病院体制の混乱を克服、東北大より医師を迎える。乳児死亡率を三分の一に低下させ、

安保闘争 1960 = 55歳：

県知事表彰、岩手日報賞。65歳以上の高齢者に国保の十割給付を断行(老人医療無料化の草分け)。地域包

括医療計画案をつくり、2年間の討議に入る。

たいたい病始 1961 = 56歳：

国保の十割給付拡大。患者輸送マイクロバス無料運行開始。競争選挙に辛勝、第19代沢内村長に就任。

全国総合計画 1962 = 57歳：

乳児死亡ゼロの偉業達成(わが国地方自治体初の快挙)。

TV宇宙中継始 1963 = 58歳：

*ついに豪雪を突破、盛岡・湯田間の定期バス開通。健康管理課設置、病院内に機構を置く。結核・精神病

患者への十割給付。生命行政が評価され、保健文化賞受賞。全国からの視察者激増。

東京初光 1964 = 59歳：

*身体に変調が出て衰えるなか、母子健康センター建設に着手。ついに検診を受けると、即刻食道ガン手術

、NHKテレビ番組「郷土に生きる」に出演後、福島医大病院に入院。

大学紛争始 1965 = 60歳：

食道癌に肺炎を併発して、没した。